

# 第70回青少年読書感想文全国コンクール募集要項

川崎市立小学校情報教育研究会

## 1.趣旨

- 子どもや若者が本に親しむ機会をつくり、読書の楽しさ、すばらしさを体験させ、読書の習慣化を図る。
- より深く読書し、読書の感動を文章に表現することとおして、豊かな人間性や考える力を育む。更に、自分の考えを正しい日本語で表現する力を養う。

## 2.応募区分

- 小学校低学年の部（1、2年生）／自由読書・課題読書
- 小学校中学年の部（3、4年生）／自由読書・課題読書
- 小学校高学年の部（5、6年生）／自由読書・課題読書

## 3.対象図書

### (1) 自由読書

自由に選んだ図書。フィクション、ノンフィクションを問いません。

※ブックレット（本文49ページ以上のもの）は対象とします。

※教科書、副読本、読書会用テキスト類またはこれに準ずるもの、雑誌（別冊付録を含む）、パンフレット類、月刊誌、日本語以外で書かれた図書および主催者の指定した図書は対象としません。

※紙媒体での書籍に限りますので、電子書籍を読んだ感想文は、対象としません。

### (2) 課題読書

主催者の指定した図書（課題図書）

## 4.用紙・字数

○今年度から、作品の提出方法が2通りになります。手書きによる原稿用紙かギガ端末のドキュメントによる提出の2通りです。（ドキュメントの場合は、1ページを20字×20行にして作品の文字数を調整してください。）

○文字数について（入賞作品として選ばれた場合は、字数いっぱいに書きましょう。

小学校低学年の部（1、2年生） 20字×20行×2枚（改行の空白含め 800字以内）

小学校中学年の部（3、4年生） 20字×20行×3枚（改行の空白含め1,200字以内）

小学校高学年の部（5、6年生） 20字×20行×3枚（改行の空白含め1,200字以内）

○題名には、「～をよんで」のような題をさけ、工夫してつけてください。

○句読点、かぎかっちはそれぞれ1字に数えます。改行のための空白も字数として数えます。

◎今年度から、ギガ端末のドキュメント→（1ページあたり400字）に書いて川崎市の地区審査に応募します。（低学年の人は、手書きの作品を担当の先生にドキュメントで打ちこんで応募しても構いません。）

○川崎市の地区審査で上位入賞した作品は、B4版原稿用紙に作品を手書きしてもらいます。この場合は、本文を1行目から書き出してください。（題名・学年・名前は欄外に書いてください。）

## 5.応募作品

- 応募は自由読書、課題読書それぞれに一人1編ずつ応募できます。
- 応募は個人のオリジナルで未発表の作品に限ります。（他のコンクールとの二重応募不可。）
- 対話型AI（ChatGPTなど）を使った作品は応募できません。
- 入賞・入選作品、学校から代表になった作品は理由を問わず返却しません。
- 入賞・入選作品の著作権、著作権は主催者に帰属します。

## 6.氏名等の公表について

コンクールに応募された児童の氏名・学校名・学年・感想文の題名・対象図書名は、毎日新聞社および全国学校図書館協議会・都道府県市区町村学校図書館協議会の刊行物・ホームページ、川崎市読書感想文画集『本をよんで』で公表することがあります。

※青少年読書感想文コンクール運営事務局

- 公益社団法人 全国学校図書館協議会 ●毎日新聞社 青少年読書感想文全国コンクール事務局
- 神奈川県学校図書館協議会 ●川崎市立小学校情報教育研究会

## 読書感想文・本を読んで伝えたいことを書こう

1. 「よい」本と出合おう。自分の興味関心、心に響いた本を選ぼう。司書さんに聞くのもよい。
2. 自分の心の中にその本が入ってきたら・・・自分が変わった、考えたこと  
付せん紙を貼りながら読み進めよう。 新しく知ったこと。  
すごいなあ、どうしてかなあ。  
もし、自分だったら・・・
3. 付せんを見返して、一番伝えたいことをしぼろう。・・・繰り返し本を読むことにつながる。
4. 読書感想文の形を整えて仕上げよう。・・・過去の感想文入賞作品を参考にしてみよう。
  - (1) 題名を工夫しよう。 「・・・を読んで」ではない、自分が最も言いたいことを題名に。
  - (2) 書き出しを工夫しよう。
    - ・自分の経験と重ね合わせる。
    - ・本文の一番心に残ったことから引用して書き始める。
    - ・普段疑問に感じていることから書く。
    - ・本を読んだ感動から書く。
    - ・本を読んだ動機から書く。
    - ・会話から始める。
  - (3) 読書感想文を組み立てよう。
    - ・はじめ、中、終わり
    - ・起承転結
    - ・伝えたいこととあらすじのバランス
    - ・一つ目、二つ目
    - ・本を読んで考えたことが伝わるような流れ
  - (4) まとめの部分を工夫しよう。
    - ・書き出しを受けてまとめる。
    - ・これからの決意で結ぶ。
    - ・本を読む前と後での気持ちや行動の変化。
    - ・力を入れすぎて余計なことは書かない。

### 第70回青少年読書感想文全国コンクール課題図書

右のQRコードを読み取ってください。読み取れない場合は、  
<https://www.dokusyokansoubun.jp/books.html>  
で検索してください。



☆ 作品提出 必ず在籍校を通して提出してください。

◎校内しめ切り 8月28日（水） 担任の先生→コンクール担当 多田 先生